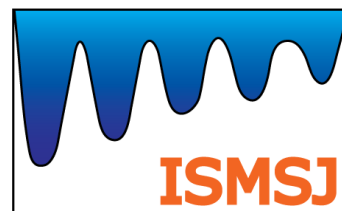


日本臨床睡眠医学会 Newsletter



No.6 2022 2022年12月20日発行

《目次》

1. 第13回 ISMSJ 学術集会レポート
2. 睡眠医学若手奮戦記6
3. 2023年睡眠に関する学術大会など日程表
※第14回日本臨床睡眠医学会 (ISMSJ) 学術集会概要

発行：一般社団法人日本臨床睡眠医学会
ニューズレター委員会

委員長：立花直子

副委員長：足立浩祥 委員：中島隆敏

〒162-0825

東京都新宿区神楽坂 4-1-1 オザワビル 2F

Tel : 03-5206-7431 Fax : 03-5206-7757

E-mail : ismsj@worldpl.jp

第13回 ISMSJ 学術集会レポート

奈良県立医科大学 呼吸器内科学講座

第13回日本臨床睡眠医学会学術集会 組織委員長 山内 基雄

2022年10月7日(金)、8日(土)の2日間にわたり第13回日本臨床睡眠医学会学術集会を奈良で開催しました。今回はオンデマンド配信を行わず現地開催(+Live配信のみ)で行いましたが、現地参加184名、Web参加62名の計246名という沢山の方々に参加していただきました。無事に学術集会を終えたものの、達成感と同時に反省点や改善点など第14回 ISMSJ 学術集会開催に向けて役に立つ経験も沢山することができました。ここでは、第13回 ISMSJ 学術集会を主催した私から総括をしてみたいと思います。

【学術集会開催までの準備期間】

組織委員長としての最初の仕事は学術集会のテーマ決定です。テーマは『次世代型睡眠医学の息吹き』としました。テーマ決定は私にとってそれほど難しいことはありませんでした。なぜなら、デジタルネイティブ世代(巷ではZ世代と呼ばれ、生まれながらにしてインターネットが利用可能であった世代のこと)の人々と一緒に働く時代になったこと、また生体情報を取得する非拘束小型ウェアラブルデバイスなどの技術革新がめざましく、睡眠領域にもこのような技術がどんどん入り込んできている状況を鑑み、人も物も全てが『次世代型』になっていると感じていたからです。『息吹き』は呼吸器内科医が組織委員長を務めることを少しアピールした形になります。そしてテーマの裏にある意味合いですが、AIを初めとしたデジタルツールの便利さを安易に睡眠医学で使用してしまうと、「進歩した技術に使われる医療者」になってしまいます。これは非常に危険です。そうならないために、ある意味アナログ的とも言える基礎知識をしっかりと習熟したうえで、「進歩した技術を使いこなす医療者」にならなければなりません。「進歩した技術を使いこなす医療者」による

睡眠医学はまさに次世代型だと考えた次第です。

さてテーマが決まれば、組織委員の立ち上げとプログラム構成、そして開催形式の決定に入っていきます。呼吸器内科医が ISMSJ 学術集会を開催するのは2013年以降のことになりますので、睡眠関連呼吸障害に大きく偏らないものの特色のある呼吸障害系のプログラムを組み込むことに私はこだわりを持っていました。組織委員の先生方とうまくコミュニケーションを取ることができて、魅力的で ISMSJ らしい睡眠関連呼吸障害系のシンポジウム・教育プログラムを組むことができたと思っています。その他のプログラムも非常に内容が充実しており、組織委員の先生方には心から感謝しています。開催形式ですが、Live配信までは許容できても現地開催重視でオンデマンド配信を行わないこと、そして懇親会を開催することに私は強いこだわりを持っていました。ISMSJの学会規模と学会のミッションを考えますと、現地に集まり、職種を越えて仲間を作り、お互いを高め合いながらチーム医療を推進させるためには現地開催しかないと考えていました。コロナ禍以降オンデマンド配信があるのが普通と思われる風潮に危機感を覚えています。オンデマンド配信では現地に来なくても、そして何度も視聴して知識を得ることができるかもしれませんが、しかしオンデマンド配信では学ぶことができません。学びには人を見て、人から直に聞いて習得することが含まれます。私の持論で恐縮ですが、「学ぶ」と「知識を得る」は違うと考えています。学会という場合は学ぶ場だと思っています。知識は論文や教材から得ることができるでしょう。またオンデマンド配信を行わなかったのは、私自身発表しにくいオンデマンドが大嫌い、Audienceに面と向かって双方向性でしゃべりたいという勝手な理由もありました。

現地開催にこだわった背景には、新型コロナウイルス感染症によるパンデミックは奈良で開催する頃には終息しているだろうと思っていたのがあります。そのため、特別講演も米国から Terri Weaver 先生をお呼びすると決めていました。ところがオミクロン株による第7波の襲来、いつまでも先行きが見えない状況が続く、このままでは、現地開催重視・懇親会開催は不可能かもの不安が募るばかりでした。しかし決めた方針で前に進むしかない、日本入国の際に必要な Terri Weaver 先生の VISA 申請書類作製（コロナ禍前は不要）を行いました。これは大変でした。また懇親会開催も直前になり感染対策を十分に施すことを余儀なくされ、着座形式でしか開催が難しい状況になりました。これでは、沢山の皆様とのコミュニケーションは成り立たないと考え、急遽会場に交渉し、アメリカ留学時代によく経験したパーティーを思い出し、バーカウンターを用意して、そのスペースでマスク着用のうえ飲むときだけマスクをずらして飲みながら立ち話をする時間帯を設けました。その後懇親会のお部屋に移動して着座するように構成しました。柔軟に対応して下さった懇親会会場の「ヒルトップテラス奈良」様には感謝しかありません。バスの手配なども実は非常に苦労したのですが、ここでは割愛します。お弁当を食べるランチオンセミナー会場での感染対策も実行委員の皆様のアイデアで行うことができました。これも以外と直前に決定したこともありバタバタでした。

Terri Weaver 先生が来日したあとは、自分自身で案内などしていたこともあり、直前の運営の詳細と感染対策は私の大学のスタッフに任せきりになってしまい、かなり迷惑をかけたと思っています。しかし、そんな状況でもうまく舵取りをしてくれたことに感謝しています。

【第1日目】

前日に会場視察したときは晴天で、「俺はやっぱり晴れ男だ！」と勝手に思っていたのですが、1日目は朝から本降りの雨でした。私に優る雨男か雨女が居るに違いありません。



ん。しかし、平日の金曜の朝からにもかかわらず多くの参加者にお越し頂きました。朝一番のシンポジウムは肝いりプログラムの1つであった「職業運転手等の OSA 患者の眠気の対応を考える」でした。普段聞くことのできない内容であり、また議論も交わされて良いシンポジウムであったと思います。その後の組織委員長講演は、次世代へのメッセージということで私のこれまでの歩みをお話しさせていただきました。あまり学際的な内容はなかったことにご容赦ください。その後も濃密なプログラム満載で休む暇もなく、一日があつという間に過ぎたのではないかと思います。組織委員長の私は、運営側でなにかとバタバタすることが多く、じっくり全てを聞くことができずでした。

【第2日目】

その後、Terri Weaver 先生の特別講演。ここでの講演内容は、実はかなり前から Terri Weaver 先生と打合せをしていました。Terri Weaver 先生とは以前からの友人で、一度、彼女自身の歩みの話を講演で聞いたことがあります。内容は、最初の頃の苦労話、仲間に会って道が開けたこと、その後自分自身の視点、看護師の視点から研究を広げていった話でした。この話をどうしても ISMSJ 学術集会の参加者に聴いて欲しかったのです。しかし、そうすると Terri Weaver 先生の学際的な話をする時間が無くなるので、その部分は協賛企業に依頼し共催セミナーという形で話題提供してもらう手はずを整えました。反省点は、事前にスライドを和訳して参加者の皆様にダウンロードできるメールをお送りしたのですが、メール送信が直前すぎて翻訳資料を手にする事なく聴かれた参加者も多かったと聞いています。Terri Weaver 先生は早くにスライドを送ってくれていたのに、忙しくて和訳に手が回りませんでした。2日目は、2会場に別れモーニングセミナーが朝早くから行われました。続いてシンポジウムと教育プログラムが並行してありました。どちらに行こうか迷った参加者も多いかと思います。

その後の内容の濃いプログラムが続く、あつという間に最後のイブニングセミナーを残すのみとなりましたが、最終日で時間が遅いにもかかわらず多くの方が残ってくださいました。最後の私の閉会の辞は、疲れで何をしゃべったか今も良く思い出すことができません。睡眠を専門としているのに極度の睡眠不足で疲れた頭と身体をフル回転



させたので、記憶する余力がなかったのか、あまり詳細を覚えていないのが残念です。そんなにしんどい思いをしたのに、会場で参加してくださった皆様の笑顔を思い出し、今はやりきったという充実感に浸っています。

最後になりましたが、会員の皆様ならびに理事・組織委員・実行委員・共催／出展企業・運営支援企業の皆様におかれましては、多大なるご協力とご支援を賜り、この場を借りて感謝申し上げます。組織委員長としては、

ISMSJらしい学術集会を開催できたのではないかと思います。今回の経験を第14回ISMSJ学術集会組織委員長の鈴木雅明先生に引き継ぎ、さらなるISMSJの発展に繋がるようにしたいと思います。今回参加していただきました皆様におかれましては、是非来年度もご参加いただき、ISMSJが皆さまの発展の場となるように引き続きのご支援をよろしくお願い申し上げます。

睡眠医学若手奮戦記6

～第13回ISMSJ学術集会実行委員としての奮闘～

濱田恵理子（奈良県立医科大学 呼吸器内科学講座）

ISMSJ 会員の皆様、初めまして。奈良県立医科大学呼吸器内科の濱田恵理子です。今回、私は、第13回ISMSJ学術集会の実行委員として、学会運営に携わってまいりました。私は組織委員長の山内先生をメンターとして、呼吸生理や睡眠呼吸障害等をテーマに大学院生をしております。ISMSJに関わらせていただいたのは、大学院入学前で、睡眠塾に参加させていただいたのが最初でした。大学で務める前に働いていた病院の呼吸器内科では、SAS 外来は特定の先生がされていたので、若手医師がかかわることがほとんどなかったためぼんやりとしか理解できておらず、山内先生に睡眠塾に連れて行っていただき、呼吸器内科の立場で深く睡眠に携わることのできる働き方があるということを知り、そのときは眼から鱗でした。ISMSJのスタッフの皆様が仲間として睡眠医学に取り組んでおられる姿をみて、このようなコミュニティがあることに憧れました。その後、特にISMSJとのかかわりはなかったものの、今回、メンターの山内先生が組織委員長として学会を主催されるということで、学会運営に携わることになりましたので、個人的な奮闘についてこちらでご報告したいと思います。学会運営において主に私がしたことは、ゲストである University of Illinois at Chicago College of Nursing の名誉学長である Terri E. Weaver 先生の観光案内と懇親会の案内でした。テリー先生と息子さんのスコットさんがウイスキーの蒸溜所に行きたいとおっしゃるので、山内先生からサントリー山崎蒸溜所ツアーの予約をす

るように指示がありました。このツアーはかなり人気で予約が取りづらいのですが、予約開始と同時に予約申し込みを3台のデバイスでアクセスし、なんとか予約を勝ち取りました。当日は、テリー先生、スコットさん、山内先生と4人で蒸溜所ツアーに行きました。ツアーでは、原酒の試飲や山崎のハイボールの美味しい作り方を学び、プレミアのついた山崎25年を試飲したりと、英会話に苦戦しながらも、テリー先生とスコットさんには楽しんでいただけたようでした。学術集会は10/7-8に開催されましたが、10/7に「筋強直性ジストロフィー（DM）におけるNPPVの忍容性についての検討」というテーマで発表をさせていただきました。奈良県立医科大学呼吸器内科では、神経筋疾患の呼吸管理について脳神経内科からご相談をいただくことがしばしばあり、最近は診断目的だけでなく、呼吸管理に難渋する症例のPSG件数が増えてきております。DM



の呼吸障害は他の筋ジストロフィーとは異なり、中枢神経系の障害も呈するため、その睡眠呼吸障害は多彩です。NPPV による適切な呼吸管理が必要ですが、その忍容性が低いことが知られており、その忍容性を規定する因子を探索するため、当科において PSG を施行した上で NPPV を導入した患者に対する NPPV の忍容性を評価しました。PSG 指標や臨床経過から NPPV 忍容性を規定する因子を特定することはできませんでしたが、今後は症例をさらに蓄積し、NPPV 忍容性改善の方策を探索したいと思います。発表は、かなり緊張してしまいましたが、なんとか終わることができました。聴いて下さった方々、ご質問を下さった先生方にはこの場をお借りして感謝申し上げます。私事ですが、実は学術集会は、専門医試験の直前であ

ったこともあり、試験直前・感染対策のため、実行委員としては懇親会の担当だったにもかかわらず、私は懇親会には参加せず案内だけさせていただきました。案内がまた大変で、皆様にお声かけして帰りのホテルを伺ったり奈良交通のドライバーの方と打ち合わせをしたりと、まるで ISMSJ の遠足のような感じでした。協力して下さったスタッフの皆様、懇親会に参加して下さった方々には感謝申し上げます。また、学術集会の運営に携わるという貴重な機会を下さった ISMSJ の組織委員の先生方、組織委員長の山内先生、実行委員長の藤田先生、参加して下さった方々に感謝申し上げます。今後ともご指導ご鞭撻の程何卒よろしくお願い致します。

2023 年 睡眠に関する学術大会など日程表

名称	場所・会場	日程
第63回日本呼吸器学会学術講演会	東京国際フォーラム	2023年4月28日～30日
第124回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会	福岡国際会議場	2023年5月17日～20日
第65回日本小児神経学会学術集会	岡山コンベンションセンター・岡山県医師会館	2023年5月25日～27日
第64回日本神経学会学術大会	幕張メッセ	2023年5月31日～6月3日
SLEEP 2023, 37th Annual Meeting of APSS	Indianapolis, Indiana, USA	June 3-7, 2023
第119回日本精神神経学会学術総会	パシフィコ横浜ノース	2023年6月22日～24日
第17回パーキンソン病・運動障害疾患コンgres	大阪国際会議場/グランキューブ大阪	2023年7月20日～22日
第36回日本口腔・咽頭科学会	ザ クラウンパレス新阪急高知	2023年9月14日～15日
日本睡眠学会第45回定期学術集会・ 第30回日本時間生物学会学術大会	パシフィコ横浜ノース	2023年9月15日～17日
第14回ISMSJ学術集会	梅田スカイビル	2023年10月6日～7日
日本睡眠歯科学会第22回定期学術集会	京都大学医学部創立百周年記念施設芝蘭会館	2023年10月7日～8日
World Sleep 2023	Windsor Convention & Expo Center, Rio de Janeiro, Brazil	October 21~25, 2023
第53回日本臨床神経生理学会学術大会	福岡県内予定	2023年11月30日～12月2日
OSHNet 第16回新PSG睡眠塾	淡路島 夢舞台国際会議場	2023年12月予定

★2022年12月1月現在の情報をもとに作製しております。詳細は各団体のHPなどで確認下さい。

第14回日本臨床睡眠医学会 (ISMSJ) 学術集会「睡眠医療；その望ましい未来」

組織委員長：鈴木 雅明 (帝京大学ちば総合医療センター)

会 期：2023年10月6日(金)～10月7日(土) 現地開催予定

会 場：梅田スカイビル (大阪府大阪市北区大淀中1-1-88 梅田スカイビル)

一般演題も症例報告を含め、初発表の方も大歓迎します。

詳細はホームページで順次紹介させていただきます。